

topacork

太古の昔から、人は試行錯誤を繰り返して、自然素材を暮らしに活かしてきました。私たちが自然素材を見るとき、触れるときに深い安らぎを感じるのには、きっと私たちのDNAに自然素材と付き合ってきた歴史が刻まれているからなのでしょう。人が作り上げてきた科学技術は進歩を重ね、数多くの「自然素材に似せた建築材料」が世の中に出回るようになりましたが、そうした材料では本当の自然素材の良さを活かすことはできません。暮らしのベースになる住まいには、ぜひ自然素材をたくさん使ってください。日本人は木の文化を持ち、本物の木を住まいに活かすことは素晴らしいことだと思います。でも、同じ自然素材であるコルクにはコルクにしかない優れた特性があります。木の良さとコルクの良さをうまく使い分けて、理想的な住まいを実現していただくことを願います。

文：野池 政宏(住まいと環境社) 絵：イラストワーク カムカム

写真提供：東亜コルク株式会社 <http://www.toa-cork.co.jp> または

「床はフローリング(木の床)しかない」と
思っていませんか？



いつもさわっている
床だけどヒヤリとしたり
ハツ! としたり
あるよね~



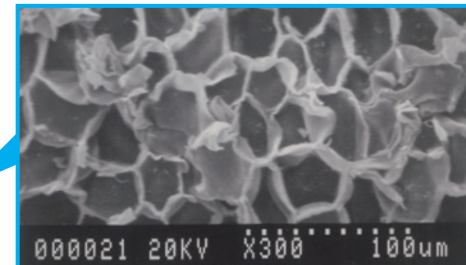
いつも身体に触れている、
床材の大切さを
もっと考えよう!

「床」は常に足に触れています。
足の裏はとても敏感で、足の裏から多くの
情報を取り入れています。1日、1年、
30年と、心地よさを感じ続ける床材と
ストレスを感じ続ける床材の差は、
とても大きいことが想像できるはずです。

うーん、
床って
毎日の暮らしに
きっと大切
なんだなあ



POINT



コルクは微細な気泡の集合体です。これにより、水にも強く弾力性や耐衝撃性といった優れた天然機能が備わっています。

家の中をあっちへこっちへ コルクの床ってとても 歩きやすいのね



足から来るストレスは、 床材の「柔らかさ」で決まる!

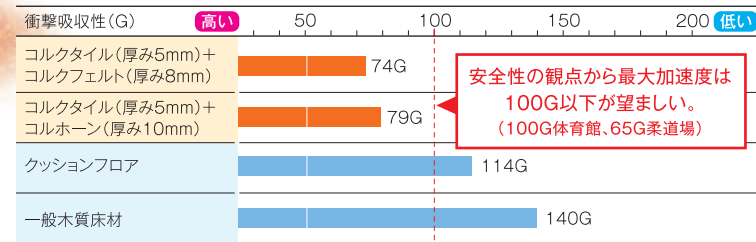
床材には、ストレスの少ない「ちょうど良い柔らかさ」が必要です。そういう意味でフローリング(木の床)は少し硬すぎます。たとえば「コルクタイル+コルクフェルト(下地)」であれば、フローリングの2倍程度の衝撃吸収性があり、足腰へのストレスを大きく軽減させます。

すべらない
かたくないから
歩きやすく
疲れにくいよ



POINT

転倒時の衝撃吸収性(下地コンクリートで測定)



コルクの床はスベスベだけど ツルツとしないぞ あんしんあんしん



足から来るストレスは、
床材の「歩きやすさ」で決まる!

誰もが、滑りやすい床材にストレスを感じた経験があるはず。逆にザラザラしていると、引っかかってつまづきやすくなります。やはり床材には、ストレスの少ない「ちょうど良い歩行性」が必要です。毎日の家事や移動におけるストレスを軽減させます。



POINT

コルク床の表面仕上別の歩行性(防滑性)

		すべりやすい (CSR)	すべりの許容範囲とコルクの数値	すべりにくい
			0.50	1.00
軟底靴	許容範囲	0.40	●0.50*1	1.00
	セラミック仕上(防滑タイプ)			1.16 ●
スリッパ	許容範囲	0.30	●0.40*2	0.63
	セラミック仕上(防滑タイプ)		●0.52	
	強化ウレタン仕上		●0.40	
靴下	許容範囲	0.30	●0.35*3	0.48
	セラミック仕上(防滑タイプ)		●0.36	
	天然オイル仕上		●0.30	
	特殊樹脂ワックス仕上		●0.32	
	強化ウレタン仕上		●0.30	

すべりやすそうな履き物でも許容範囲をクリア

*1:最適値0.50
*2:最適値0.40
*3:最適値0.35

コルクはあったかやさしい
はだしがきもちいい
ゴロンとしたくなるね



足から来るストレスは、
床材の「温かさ」で決まる！

足の裏は「温かさ、冷たさ」をととても
敏感に受け取ります。

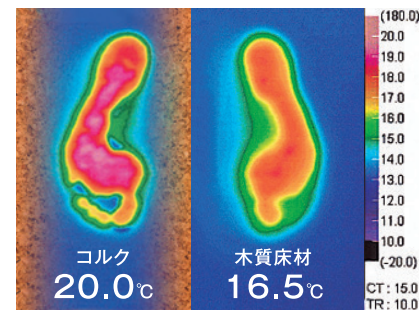
とくに冷え性の方は、「足元から身体
全体が冷えていく」という経験をお持ち
でしょう。こうした問題を避け、フロー
リングよりもずっと温かさを感じて
過ごせるのがコルクの床材なのです。

あしもとが
冷たくない
だからからだ
冷えにくいんだ



POINT

床材の違いによる素足裏面の温暖効果の比較



- 設定温度: 10.0°C
- 床材の種類: コルク・木質床材
- 測定条件: 気温10°Cに設定してある人工気候室において、室温と同じ10°Cに冷えた床材に素足で2分間直立した状態を保つ。素足を床材から離れた直後に熱画像測定を行う。

CT: 15.0
TR: 10.0

於 福岡大学 須貝研究

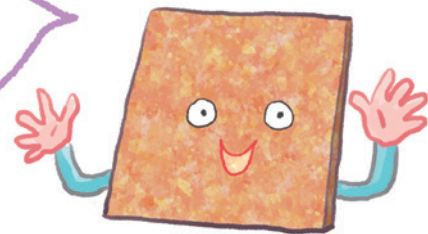


コルクの床材は

「家に長くいる方(主婦)」「お子様」「高齢者」に最適!

ここまでのお話でわかるように、コルクの床材は様々な意味で身体へのストレスを軽減させ「家に長くいる方(主婦)」にととてもたくさんの恩恵をもたらします。いま床材は「フローリングが当たり前」になっていて、流れに任せた家づくりをすれば、すべての床材がフローリングになってしまいます。改めて床材の違いによる大きな影響を考えていただき、選択肢の中にコルクの床材を加えてみてください。

歩きやすい
ツルツとしない
温かい
だからいろんな所で
えらばれています



Q & A 「でも、こんなところが心配」 「もう少し教えて」にお答えします

Q 水をこぼしたら吸い込んで膨らんでこないの？

A コルクは適度な油分を含んでおり、素材自体に水をはじく性質があります。

とても長い間ワインの栓に使われてきた歴史がそれを証明しています。また、コルクの床材には様々な塗装のバリエーションがあり、さらに水をはじく機能も追加されています。実際、キッチンやトイレ、洗面室にも数多くの使用実績があります。キッチンのことでつけ加えれば、コルクの衝撃吸収性の高さによって、落とした食器が割れにくいというメリットもあります。



Q 空気を汚す化学物質は出てこない？

A コルク床材は、もっとも健康への影響が大きいとされるホルムアルデヒドの発散量をもっとも少ない「F☆☆☆☆(フォースター)」の大臣認定を取得しています。

またホルムアルデヒドの次に健康への影響が危惧されているトルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンといった化学物質についても、業界団体の基準をクリアしています。



Q 調味料などをこぼしたらシミにならない？

A 水をはじくコルクは、シミにも強い床材です。

調味料などのシミがつくのは、その水分と一緒に色の成分が床に染み込むことが原因です。

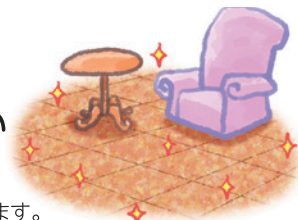


Q 「見た目(デザイン)」は悪くないの？

A フローリングを見慣れた方には少し違和感があるかもしれませんが、フローリングにはない独特の深い味わいがあります。

慣れてきたら、多くの方にその味わいが気に入っていただけると思います。

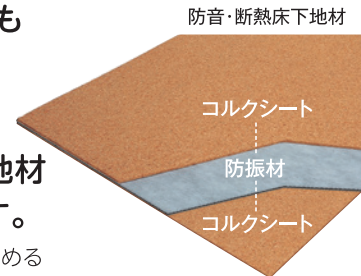
すべての床をコルクにするという考え方もありますが、その特性がとくに活かせる場所(たとえばキッチン、ダイニング、洗面室、トイレなど)にコルクを使って、フローリング床とのデザイン的な変化をつけるというのもおもしろいと思います。



Q 下の階への音が気になるマンションにも使えるの？

A コルクは防音性にも優れており、その特性を活かした防音・断熱コルク床下地材との併用でマンションにも使用できます。

この製品を使っただけであれば、一般的なマンションが求める防音性能をクリアします。



施工事例

住宅や学校、幼稚園、保育所、診療所、福祉施設、図書館など様々な場所でその優れた特徴が認められ、「コルクの床」が採用されています。

